

A Activity B ased W orking

次世代ワークプレイスのABW空間

オフィスにおける新しい空間設計

近年のオフィスでは、オープンエリアやフレキシブルワークエリアへの移行が進んでいる。オフィス内を複数のエリアに分け、業務内容に合わせて働く場所を選べるABWの考え方も浸透してきた。たとえば、オフィスをコラボレーション（協働）エリアやフォーカス（集中作業）エリアなど目的別に分け、社員が自席にとらわれずに働ける最適な環境を提供している。このようなフレキシブルスペースをワーカーがカジュアルミーティングや個人作業などの状況に応じて使い分け、コミュニケーションを誘発することで、生産性と快適性を向上させている。

コラボレーションを促進するデザイン

センターオフィスではコラボレーションを促す空間デザインが重視され、チームがすぐに集まって議論できるようにオープンスペースエリア内に大小さまざまな規模と機能を備えた、多様なデザインのミーティングスペースが配置されている。また、執務エリアの近くにソファやハイテーブルを備えたカジュアルなリフレッシュスペースやカフェを設け、偶発的なコミュニケーションを生む配慮もされている。このようなオフィス内のサードプレイスは、社員がリラックスしながら、部門を超えたコミュニケーションができる場であり、新しいアイディアを創発する場として捉えられている。

自然と共生する執務環境

多くの調査で「オフィス環境の満足度が高い企業ほど従業員エンゲージメントや業績が高い」傾向が報告されており、心や身体を健やかにするWell-Beingの視点がオフィス計画の重要な要素として認識されつつある。この視点から、オフィス空間に植物や自然光を取り入れるケースが増えており、メンタルヘルスの改善など、多面的に心身に良い影響が生まれるとと言われている。また、視界に「緑」があるだけで集中力が高まるという研究結果もあり、BGMとして森の音や小鳥のさえずりを流すケースも増加している。事実として、WELL認証やLEED認証では、自然を活用した「バイオフィリックデザイン」が評価概念として含まれている。

スマートオフィス技術の活用で脱炭素化を推進

次世代オフィスでは、IoTセンサやAIを活用した技術により、空間の有効活用と快適性向上が図られている。人感センサや温湿度センサ、照度センサなどを配置することで社員の出勤状況なども把握。デスクの空き情報をデジタルサイネージやアプリで案内したり、照明・空調を自動制御したりする仕組みも導入されている。また、オフィス内各所に設置された各種センサはスペースの利用率データをリアルタイムに収集。デスクの予約状況やフロアの滞在人数、会議室の利用頻度までを把握でき、そのデータを

もとにオフィスマネジメントの効率化やレイアウトの改善が可能になる。また、センサが一定時間、人の不在を検知すると照明や空調を自動でOFFにし、省エネと安全管理も両立。このように、センターオフィスでは空間デザインだけでなく、テクノロジー面から、快適性を追求しながら省エネ技術の進化により、脱炭素化が進められている。

働き方の再定義

次世代ワークプレイスの空間設計とは、単にオフィスの見た目を近代化するだけでなく、働き方そのものを再定義することがベースにある。オフィス空間を社員の創造性やエンゲージメントを高める「装置」として捉え、テクノロジーとデザインの力で働く体験を向上させること。それが次世代ワークプレイスを先導する企業の戦略と言えるだろう。さらに、脱炭素社会実現のためのZEBを実現すると同時に、Well-Beingな環境の提供も求められている。オフィスは単なる「働く箱」ではなく、働き方改革と社員の幸せ、そして企業の成長を支える戦略的リソースとなりつつある。今後も技術の進化や価値観の変化に合わせて、AIを活用したビル設備の自動最適化やバーチャルオフィスとの融合など、ワークプレイスはダイナミックに進化していくだろう。

ここでは、これまで当広報誌「建築設計REPORT」や事例集に掲載してきたワークプレイスの事例から、各ゾーンやエリアを紹介していく。



Well-beingな働き方を実現する自由度の高いシェアフロア【パナソニック東京汐留ビル PERCH LOUNGE】



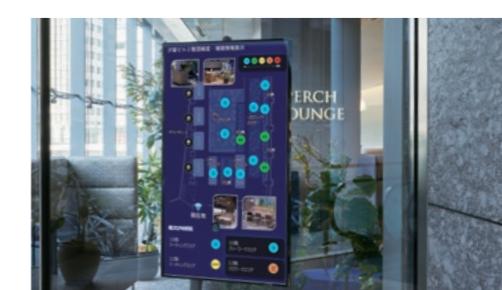
運動により健康を促進するために設けられた屋内螺旋階段【パナソニック エナジー 住之江 生産プロセス開発棟】



自然を意識させるシンボルツリーが置かれたコミュニケーションゾーン【パナソニック東京汐留ビル】



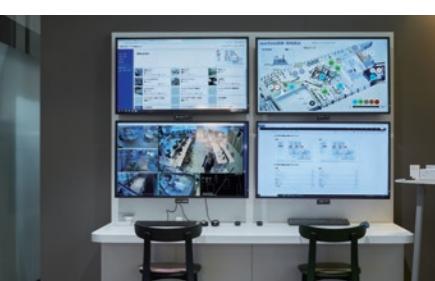
自然とのつながりを感じるUXを提供するバイオフィリック空間【パナソニック東京汐留ビル worXlab】



リアルタイムに混雑度を見える化するデジタルサイネージ【PERCH LOUNGE】



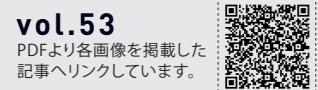
各階の温湿度やCO₂濃度など、空気環境が一目で確認できるサイネージ【TO-REI 成長支援センター】



オフィスの混雑度と環境計測を行う「空間見える化ソリューション」【worXlab】



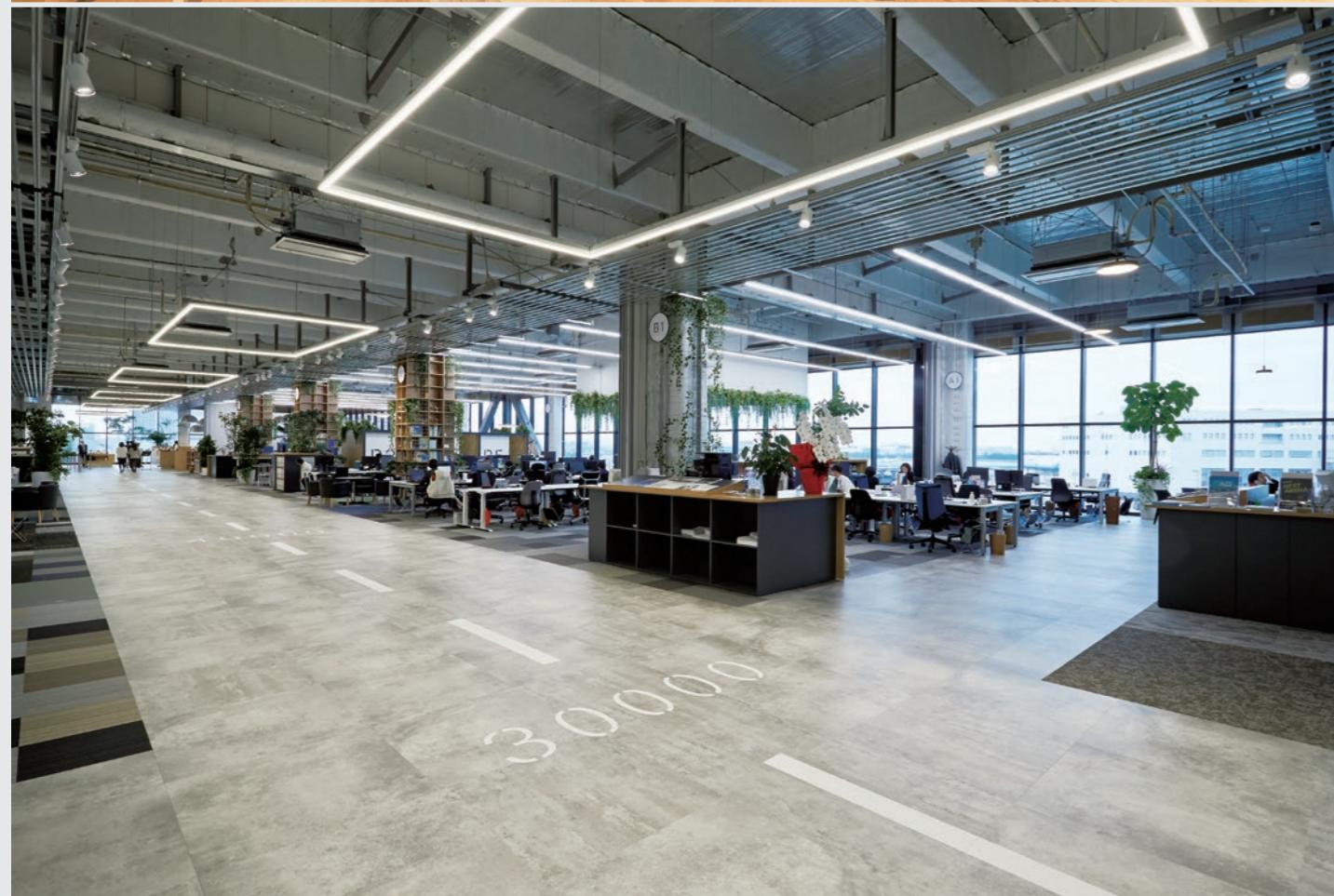
大規模な躯体改修を行わず設備改修と運用によりZEB化を実現【パナソニック 京都ビル】



vol.53
PDFより各画像を掲載した
記事へリンクしています。

壁や仕切りが少なく、ワーカーが自由に交流できる開放的なエリア

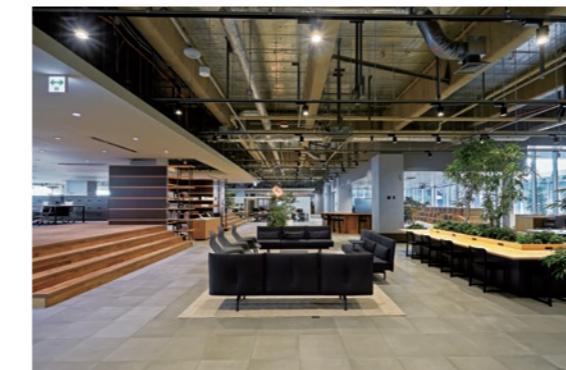
フリーアドレス制が採用されチーム間のコミュニケーションがしやすい空間設計



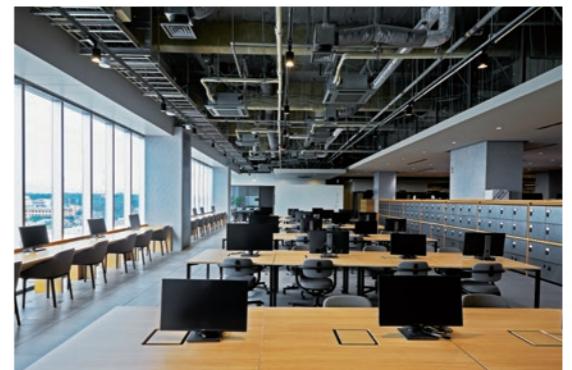
光と音で働く環境をゾーニングできる執務エリア【worXlab】



県産材の木製ルーバーに設置したベース照明とスポットライトの組み合わせでリラックス感と集中を両立【奈良県庁 本庁舎】



フロアに高低差をつけることで、開放的な執務エリアと左階段上の集中作業エリアを緩やかにゾーニング【KADOKAWA 所沢キャンパス】



開放的なコワーキングスペース【KADOKAWA 所沢キャンパス】



約120m²のコミュニケーションゾーン【3×3 Lab Future】



車載電池をモチーフにしたセンターサークルの下に作業スペースやライブラリなど多様な機能を集約【パナソニック エナジー 住之江 生産プロセス開発棟】



コラボレーションエリア(左)とセミナールーム(右)を仕切る書棚横に設置された植栽一体型の「環境音ソリューション」(写真右)【パナソニック オペレーションエクセレンス リクルート&キャリアクリエイトセンター】



vol.53
PDFより各画像を掲載した
記事へリンクしています。



◀ (上)利用者が自由に席を選んで働けるフレックススペース【point 0 marunouchi】
(下)約5,300m²のメガプレート・オフィスを、各部門をつなぐ4本のランウェイが交差する【締設計 本社】

COLLABORATION AREA

コラボレーションエリア



状況に応じたスタイルのミーティングができる多様なエリア

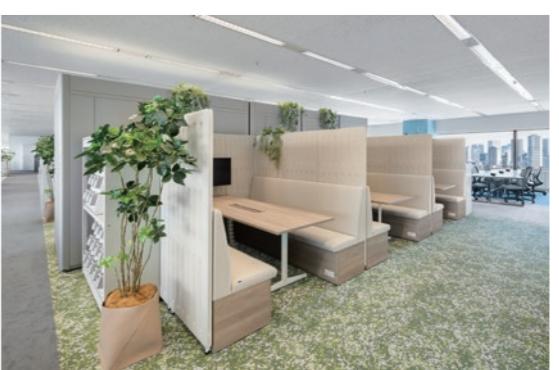
小規模なチームによるカジュアルな打ち合せができるスペースや半個室の静かなミーティングスペース

プロジェクター投影時もデスク上の照度が確保できるプレゼンコーナー
【奈良県庁 本庁舎】

天井照明によって最適な環境を演出する会議室【PERCH LOUNGE】

ミニパーティーにも利用できる個室会議室
【パナソニック エナジー 住之江 生産プロセス開発棟】「イープロック」で電源供給する窓際のボックス席
【パナソニック名古屋中村ビル】

画面に光源が映り込まないグレアカットタイプの小型シーリングライトが配置されたミーティングやイベントなどに利用される多目的ブース【中電工業】

開放的な空間でソロワークもできるリラックス集中ゾーン
【パナソニック東京汐留ビル】太陽・風など自然の色をタイルカーペットに採用した会議室
【パナソニック エナジー セル開発統括本部】高いパーティションと背後の「SOLO BASE」を壁にして音漏れに配慮した
ファミレス席【パナソニック東京汐留ビル】

vol.53
PDFより各画像を掲載した
記事へリンクしています。



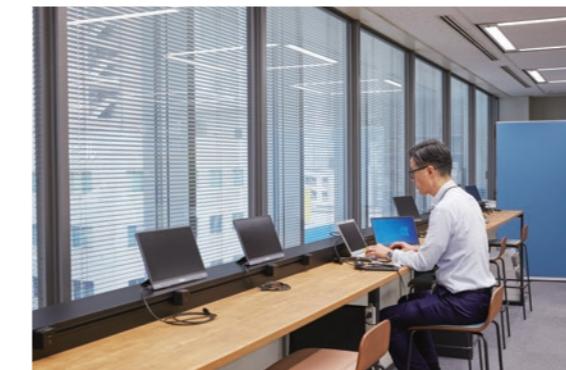
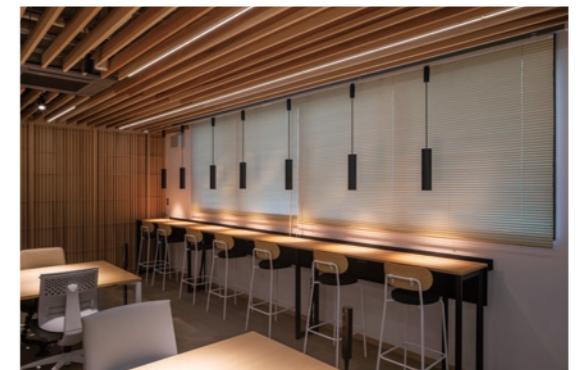
◀ (上)「加速エリア」と名付けられた、課単位のフリーアドレスフロア【パナソニック エナジー セル開発統括本部】
(下)各エリアから集まりやすいフロア中央に配置されたテーブルには「環境音ソリューション」が組み込まれている【パナソニック名古屋中村ビル】

静かな環境で集中して作業できるエリア

ノイズを最小限に抑えた環境を提供し、Web会議を行うワークブースなどの設備も配置



窓際集中ブースで机上面を照射するLEDペンダントライト【中電工業】

利用頻度の高いソロワークスペース
【パナソニック インダストリー 西門真拠点オフィス】ロッカを撤去して明るい窓際に作られたハイカウンターの作業スペース
【パナソニック名古屋中村ビル】窓際のペンダントがカフェのような光環境を創り出している
【奈良県庁 本庁舎】手元作業用のタスク照明と大型モニタが設置された個室
【阪急阪神ONS 千里中央】Webミーティングにも利用される防音の「フォンブース」
【point 0 marunouchi】

窓側の集中ゾーン「プラクティス」。プランターボックスの柱側にスピーカー開口部があり、環境音が柱に反響してゾーンを包み、外からの音をマスキングする【日建設計コンストラクション・マネジメント 大阪オフィス】



vol.53
PDFより各画像を掲載した
記事へリンクしています。



◀ (上)コミュニケーションゾーンに設置されたWeb会議も可能な「SOLO BASE」(写真奥)【パナソニック東京汐留ビル】
(下)17個の個室が配置されたサテライトオフィスは顔認証で入室が可能【阪急阪神ONS 千里中央】

カフェスペースやラウンジエリアを設置してワーカーがリフレッシュできるエリア
グリーンを配したり屋外環境を利用することでリラックスしやすい環境を整備



物流倉庫のトラック駐車スペースの段差を利用したラウンジ【梓設計 本社】



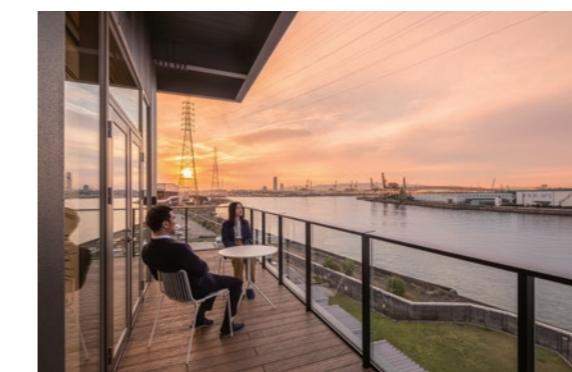
リラックス、リチャージ、コミュニケーションで脳の切り替えを促す
「SWITCH SPOT」【パナソニック東京汐留ビル】



間接照明とダウンライトで構成された開放感のある7階ラウンジ
【MFLP船橋Ⅲ】



交流ゾーンと集中ワークゾーンの間に配置されたマグネットスペース
【パナソニック インダストリー 西門真拠点オフィス】



仕事疲れをリフレッシュする北に面する木津川の外部テラス
【パナソニック エナジー 住之江 生産プロセス開発棟】



大手町の夜景により気分転換を促す屋上のLOUNGEエリア【大手町ビル】



光・空気・音・香り・映像で没入感のある環境をつくり
短時間で気分転換を促す空間【worXlab】



社員などの自己紹介を流す「ランターナ」(画面右)がコミュニケーションを活性化する「マルティカフェ」【NTTデータMSE 横浜オフィス】

vol.53
PDFより各画像を掲載した
記事へリンクしています。



◀ (上) エントランスに設けられたカフェとライブラリー【KADOKAWA 所沢キャンパス】
(下) 交流の場と位置付けられ、「エアリーソリューション(写真右奥)」も設置されたラウンジ【CBRE RISE Café】